



企画展

武具へのこだわり

- 会 場 1階 松平家史料展示室
- 会 期 令和7年8月22日(金)～
10月6日(月)
- 休館日 9月8日(月)、9日(火)

今回ご紹介する刀や具足（よろいかぶと）は、武士たちが命を預ける拠りどころとして、いざという時には存分にその能力を発揮できるよう、日常の手入れはもちろん、自らの身体になじむよう“カスタマイズ”されていました。また日常やハレの場の「装い」の一部でもあり、自己主張の手段として職人にいろいろな注文を行い、自身の趣味・教養や信仰などへの「こだわり」を盛り込んだものも多いのです。

武具を観察すると見えてくるいろいろな「こだわり」ポイントについて、越前松平家ゆかりの資料を中心にみていきましょう。

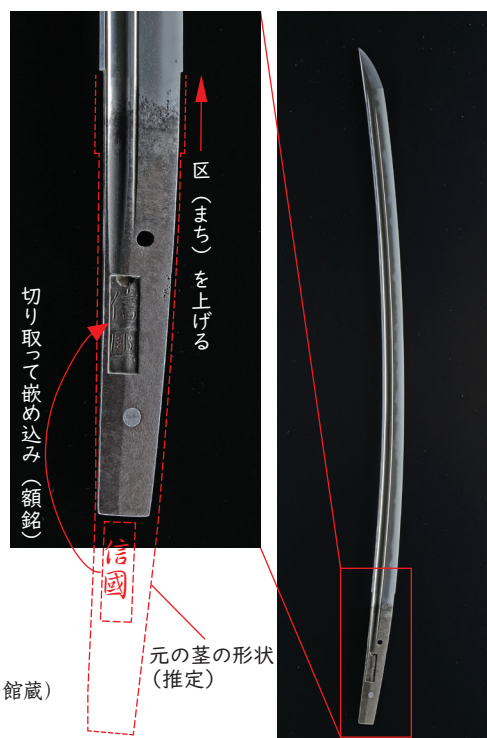
いにしえ

古の名刀もばっさり！使い勝手へのこだわりでリサイズ

こだわりポイント①「磨上げ」

刀の歴史をみると、南北朝時代あたりまでの「太刀」は長大で反りも深く、騎乗した武士が馬上から振るうのに適した形状でした。室町時代以降、腰に差して徒歩で振るう「打刀」が主流となると、これら古い刀も徒歩で振るうやすいように短く「リサイズ」されることが多くなりました。これを「磨上げ」といい、必ず茎尻から切り詰めて区を上げる（右写真参照）という方法で短くしています。磨上げによってもともとあった作者銘が失われるほど短くすることを「大磨上げ」といいます。また銘が失われることを惜しんで銘部分を切り取り、加工後の茎部分に嵌め込んだものを「額銘（短冊銘）」といいます。

磨上げて額銘とした南北朝時代の刀
刀 額銘 信国（福井市春嶽公記念文庫 当館蔵）



切れ味へのこだわり？メジャーでなくなった武器をリメイク&リユース

こだわりポイント②「薙刀直し」

南北朝時代頃まで長柄武器の主流であった薙刀を仕立て直して脇指や打刀として再生したもの。厳しい実戦をくり抜けてきた優品が多いことから、古来「薙刀直しに鈍刀なし」といわれています。その形状も見るからに切れ味が凄まじそうなものが多いのは確かです。

元の薙刀の形状
（推定）

薙刀直しの脇指

脇指 無銘 法城寺国光（越英文庫 当館保管）



パトロンとして刀工にオーダー

こだわりポイント③ 「注文打」 ちゅうもんうち

古い名刀を尊重するだけでなく、自分が見込んだ当代の刀工に自分専用の刀を注文して作らせる、ということもよくありました。「応需●●●●（発注者の名前）」など、その旨を刀の茎に刻んだものもあります。ここで紹介する「○○○○所持」という「所持銘」のある刀も、注文打による作であると思われます。

注文打と思われる、見事な刀身彫刻のある脇指
脇指 銘（葵紋）以南蠻鐵於武州江戸越前康継
本多飛驒守成重所持内（立葵紋）
（個人蔵 当館保管）

（所持銘）
成重
本多飛驒守
所持内



唯一無二のフルオーダーメイド品

こだわりポイント④ 「こだわりの拵」 こしらえ

武士が刀を身につける際には、必ず「拵」、つまり柄や鞘その他の刀の装具一式をととのえたものを用意しました。常に身につけるものですから、刀身そのものよりも人の目につくことが多く、江戸時代には武士のファッションの一部でもあったといえます。

特に大名や身分の高い武士は、自分の好みや教養を表わすものとして、拵の各部分の意匠やその構成にこだわるが多かったようです。そのため素材・塗り・デザイン・コーディネートにこだわった様々な拵がいまに伝わっています。



熱帯産のニシキヘビの革を用いた鞘の拵
蛇革包鞘大小拵（福井市春嶽公記念文庫 当館蔵）

戦場で身につけることはほぼないけれど...こだわりのかたまり、武家の威信の象徴

こだわりポイント⑤ 「藩主所用具足」 はんしゅしよようぐそく

ここで紹介する「具足（よろいかぶと一式）」は、戦がなくなった江戸時代に、歴代の福井藩主のために制作されたものです。当然、殿様が身につけて戦場に出陣するということはほぼ考えられない時代ですので、実戦での使い勝手よりは見た目の華やかさ、デザインの斬新さなどを追求したものが目立ちます。

藩主の所用具足は、着用する当人にあわせて、そのこだわりも反映させながら作られたものですが、家の威信を示す道具としても重要視された特別な道具といえます。

菊唐草模様の透かしが入った「山勢形（さんせいなり）」の立物が存在感を放つ
7代藩主松平吉品所用の具足 茶糸威四枚胴具足（越葵文庫 当館保管）



ギャラリートーク

担当学芸員による展示会解説

8月31日（日）・9月21日（日）・10月4日（土）
いずれの日も午後2時から30分程度

参加無料
（但し観覧券必要）

次回の展示

秋季特別展 能と狂言—桃山の遺風— 第2会場

越前と能・狂言

10月11日（土）～11月24日（月）

展示解説シート No.180 令和7年8月22日発行
福井市立郷土歴史博物館 〒910-0004 福井市宝永 3-12-1
電話 0776-21-0489 Fax 0776-21-1489
担当：松村知也 印刷／宮本印刷